

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090700038		
法人名	久建産業㈱		
事業所名	グループホーム・アリス		
所在地	群馬県館林市羽附町字本宿699番地		
自己評価作成日	平成30年4月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人が望む生活を支える専門職として関わる事が出来るよう職員研修の予定を立て随時行っております。根拠を明確にしたケアプランの作成が出来るよう努め、ケアプランが全職員に周知実践できるよう努めております。併設している小規模多機能型居宅介護への行き来や、合同での行事を通して、外出が困難な方でもグループホーム以外の交流の場を設けられるよう努めています。事故の発生を防ぐため、ヒヤリハットを出来るだけ書くよう指導をし、事故報告書の書式も見直しを行い、事故の発見者の予防ための対策記入欄に加え、施設長・ケアマネ・管理者からの意見記入欄も増設し事故の発生を未然に防ぐよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人を知り望む生活を支える」を理念に、全職員が理念を理解するとともに、その実践に努めている。利用者の以前の生活の様子や趣味・嗜好などの情報を家族より入手し支援に活かすことや、日常生活の関わりの中で利用者がみせるその人らしさを知り、総合的にその人の望む生活を理解して、具体的生活支援に努めている。そうしたなか、喫煙習慣のある利用者には、他の利用者の迷惑にならないような場所を選び喫煙できる場を設けたり、長いこと一人での食事を好み習慣化していた利用者には、決められた食事時間だけでなく、本人の食べたいところに食事ができる支援を行っている。その他、食間薬や1日1回の定時薬の飲み忘れ防止に向け、職員が意見を出し合い検討して、利用者の服薬時間を事前にセットしアラームが鳴るようにすることで、定時薬の飲み忘れ防止に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の基本姿勢を理念に掲げ、常に職員の目につくところに掲示し、ケアカンファレンスやモニタリングを行う時に、理念に基づき話し合いをしている。	朝の申し送りで、理念に基づく生活支援の実践に向け、1日の計画を確認している。例えば、利用者の習慣により起床時間の遅い場合は、本人の望む時間に食事が摂れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて、自治会役員様の力添えをいただき、地域のお祭りに参加したり、運動会に招待していただいたりしている。消防訓練の際も回覧板で訓練の周知を行い参加を募っている。しかし近隣は日中留守が多く日常的な交流は無い	自治会に加入している。回覧板を活かし事業所主催の「祭りの案内」を伝えることや、地域の神社の祭りを知り参加すること等、地域の人々と相互関係を築いている。定期的に読み聞かせボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケアの協議体に入り情報交換会議に参加をしている。事業所主催のお祭りで相談できる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回報告を行い、外部からの意見を真摯に受け止め、サービス向上に活かす努力を行っている。	全家族に運営推進会議の開催日を知らせ、家族の参加に努めている。前回の意見より、「地形から予測される水害について、消防署の早期連絡・指導や、避難場所を警察署にすることの確認等」災害に関する具体的な意見や提案が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度改正後の対応や介護保険制度の解釈等分かりづらい内容の問い合わせを行うなど、報告や相談を随時行っている。	運営推進会議では、市担当者の出席があり、意見や提案をしている。介護保険制度の改正時や各種加算について、随時相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を開示し職員が閲覧できるよう指導している。研修も行っている。	身体拘束の指針を作成するとともに、研修会を行っている。受講後は報告レポートの提出を求め、職員の拘束に関する認識と実践を深められるようにしている。玄関は、日中錠し自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待の研修を適宜行い職員教育をし、定期的に自己チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用しているご利用者様がいて、身近に学ぶ機会がある。日常生活自立支援事業に関してはパンフレットを置いて理解できるようにしている。現在も両制度の活用に向けて家族と相談中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を使い分かりやすく説明をしていて納得を図っているが、契約後に疑問が生じる事もある為、随時説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内を毎回全ての家族に通知し参加を求めている。参加していただいた時に意見要望を聞く機会を作っている。担当者会議の場でも、プラン提示時に要望の聞き取りを行っている。	意見箱の設置、運営推進会議の参加時やケアプランの作成時に、家族の意見や要望を、管理者、職員へ表す機会を設けている。また、来所時には、言いにくい部分があると思われるので、どんな些細なことでも言える雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時個人からの要望を聞く機会を設けている。年4回の全体会議の場では運営状況の報告を行い職員の意見を聞き取り反映させるよう努めている。	施設長との職員(個人)面談、全体会議(年4回)の場を設けている。職員からの発案で、事故報告書の書式の変更や、ソファの設置場所の改善等が話し合われ活かされているが、一部の職員の意見や提案であり、他の職員へは管理者からの事後報告となっている。	多くの職員からの意見や提案を聞く、また議論する機会を設け、さらなる運営への反映を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務評価表を作成し、実績・勤務状況・研修への参加・資格取得等を把握し職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の技術に差がある事を踏まえながら、施設内外の研修への参加を促し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修活動を通じて、同業者間の連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	密に話を聞く時間をつくり、不安に思っている事や、本人の要望の聞き取りを行っている。言いたい事が言える関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と事務的な契約内容だけではなく、今までの経緯や意向、不安などを聞き取りを行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時困っていることに対して 出来る範囲で対応している。またその時のニーズを正當に見極める事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見極め、役割を持って生活していただき、生活を共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも面会に来ていただけるようにしている。また受診介助や外出などにもご協力いただいている。それらを通じて利用者様と職員と家族の関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親類の方が訪ねてきていただける環境ではありません。認知症の進行とともに馴染みの方の訪問が減ってしまう事はありますが、状態の報告をし現状を理解していただき面会の機会を作っていただけをお願いしている。	友人の訪問や、家族の誘いで名物の「うなぎ」を食べに外出している利用者もいる。また、家族の所へ出かけ、近隣の馴染みの方と交流できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置やレクレーション等を通じて、関係性を常に観察しお互いの気持ちに即してご利用者様同士が関わりあえるように環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談していただいたり、立ち寄っていただける関係の継続に努めている。本人の経過を見に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人を知り望む生活を支えるという理念に基づき、本人の思いや意向の把握に努めている。	意思疎通が困難な利用者には、以前の様子を家族に聞き、本人の望む生活ができるよう努めている。そうしたなか、帰宅願望のある利用者には散歩に出ることや、普段の関わりから帰りたい理由を推し図り、本人に合った役割が担える支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの記入をお願いしたり、家族以外の方の面会があった時は、お話を伺う機会をつくり情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を通じ、各利用者の現状の把握とその情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録やケアカンファレンスを通じて利用者の情報の共有を図り、その人らしい生活に即したケアが行えるようケアプランを作成している。	利用者・家族からの意見や要望を聞いて、担当者会議で介護計画を作成している。毎朝の申し送りでケースカンファレンスを行い、利用者の支援内容の見直しを行い、職員で共有して日々の支援を提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の備考欄に気づきや工夫を記録するように介護記録を見直し各職員の気づきを共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫煙される方の入居に伴い、喫煙場所の整備を行った。ボランティアの方の受け入れをし、絵本の読み聞かせを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	つつじが丘公園の散策や、花菖蒲・ぼたん等の花見に出かけたり、オープンガーデンの見学に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各かかりつけ医と連携を図り健康管理を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医へ受診している。受診は家族同行を原則とし、受診の際には利用者の様子や血圧等の記録資料を家族が持参できるよう渡している。診察の結果は家族からの報告と、必要に応じ事業所がかかりつけ医へ直接問い合わせる関係を楽しんでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の非常勤看護師と連携を図り、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の相談員と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対策・終末期ケア対応指針を作成し、全利用者家族に説明同意をいただいている。また、ケアプランの見直しの時に終末期に向けたご家族意向の確認を随時行っている。	入居時に、事業所指針を用い本人、家族へ説明し同意を得ている。必要に応じて、協力医から家族に説明を行い、家族の意向を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命の講習を実施し、受講した職員を配置している。救急搬送時のマニュアルを作成し活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防署立会いにて年二回の消防訓練を行っている。それ以外の月に火災以外の避難訓練を行っている。近隣の会社の職員に災害時の協力についてお願いしている。また警察署への一時避難の了解も得ている。	消防署立ち合いで年2回火災訓練を実施、うち1回は夜間想定訓練を実施している。訓練については、回覧板で地域住民に知らせたり、運営推進会議で協力を呼びかけたりしている。また、毎月避難訓練を実施し、災害時には警察署への一時避難の了解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに関しては、本人の性格傾向などに配慮している。個人情報に関しては記録を安易に見えないところへ保管している。	呼称は、年長者として敬意を払い、基本的に「～ちゃん」は使用しないこととしている。ケアの場面では、利用者がいくつかの中から選び自己決定できる支援を行い、本人の意思を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思決定をしていけるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望に沿った生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によつての差はあるが、その人らしい身だしなみができるよう環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で本人の好みに合わせての食事の提供をしている。職員と一緒に食事を摂ったり片づけなどを一緒に行ってもらっている。	献立作成や食材調達は業者に委託し、宅配された食材に、事業所菜園で収穫した野菜をつかい工夫して、食事が提供されている。食後の片づけは、職員が食器を洗い、その食器を利用者が拭くことを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師と連携し、栄養と水分の確保について本人にとって最良であるよう支援している。食事と水分量は記録をとり、体重測定も毎月行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯がある方は夜間預かり洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し排泄のパターンやタイミングを見つけ、パット交換やトイレ誘導を行っている。また排泄のサインを職員間で共有しトイレ誘導につなげている。	排泄チェック表や、利用者の様子を見てトイレ誘導を行うとともに、無理強いをしない、さりげない言葉かけでトイレへ誘導している。また、排泄がスムーズになるよう、トイレで笑うなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や乳製品などの補助食品の活用や腹圧をかける体操などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の安全と職員の安全な仕事環境に配慮した中で、できる限り本人らしい入浴ができるよう努めている。	週3回を目安に入浴している。入浴を嫌がる利用者には、日時を変更する、無理強いをしない対応に努めている。入浴の際には、声かけや肌の露出を最小限に、一人ひとりの気持ちや状態に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに配慮し、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情については、職員全員が確認できる場所に保管し各職員に把握を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、その人の生きてきた背景に配慮し、必要があればご家族に相談をしたりしながら用意できるよう努めている。外出や外食に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出られる環境は常にあり、菜園を作ったり、花壇の整備をして日常的に外出できるように努めている。	利用者の希望で回らずしへの外食や、花見に出かけている。大型店舗へ出かけることもあり、定期的に外出している。日常的に、本人の希望に応じて事業所周辺へ散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持についてはご家族の理解を得られている方については行っている。買い物に出かけても選べない事で、混乱の引き金になってしまう方には支援できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	容易に出来る環境ではない。しかし家族と相談し必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを行っている。現状の住環境のなかで出来るだけ混乱を招く刺激になってしまわないように配慮している。	場面に応じたテレビの音量の調節に配慮することや、画面の見やすい位置にソファを置くなどの工夫をしている。また、ソファの配置を増やすことで、利用者が共用の場でつらげる環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し居場所を作れるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参してもらったり、物の配置等を工夫し配置している。	居室には、日頃の作品や、ダンス・思い出のトロフィーなどが置かれ、落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の持っている力を活用できるよう配慮した環境づくりを行っている。		